

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	令和5年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5年 10月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者お一人おひとりの思いを受け止め、職員とお互いに毎日を過ごせる様支援しています。常に感染症対策を考えながら、面会や外出等増やしていくことでコロナ禍以前のホームの生活を取り戻し、利用者、そのご家族、職員が一体となれる様努めて地域との関係性も大切にしています。職員は、内外研修に励み、質の高い介護を目指し利用者の健康の確保や、ご家族の安心につなげています。利用者が施設内だけの生活にならない様工夫し、空をながめる時間や花を見る時間、季節を感じられる時間を楽しめる様にしています。中庭では、旬の野菜や季節の花を育てており、収穫の喜びや愛でる楽しさや香りを感じていただいております。ご縁を頂いた入所者、職員が共に生きる意欲のしぼまないホームづくりを目指し、第二の家として穏やかな生活を安心して送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長はじめ、管理者、職員の勤務年数が長く、ホームの雰囲気はほっこりしており、落ち着いたケアが入居者の表情から窺えます。広い中庭を有効に活用し、季節感のある取り組みが充実しており危険がない限り、入居者の行動を制止せず、本人の行動の理由を考えた対応と、また、症状に添った関わり方など工夫しながら入居者、家族に気持ちよくホームを利用してもらえる様に努めています。代表者は、管理者、職員の意見を真摯に受け止め迅速に対応しており、職員の自己肯定感が高い事が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な研修を行い、当ホームの理念への思いや希望を知る事で全職員が同じ思いでサービス提供できるようにしています。	業務に幅を持たせ、入居者に合わせ臨機応変に考えて行動する事が、職員間に定着している様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ感染対策のため日常的な交流は行えていませんが、つながりが途切れないように参加できるものであれば事業所として参加しています。	感染症流行により、以前の様に地域サロンへの参加や学童保育児童との交流は行えていませんが、児童が製作した季節行事の装飾作品を事業所に飾る等、繋がりが途切れない様に工夫しながら取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった時には、随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や包括・かかりつけの薬剤師、ご家族等の参加もあり、ホームの現状など意見を出し合い、サービスの向上に活かしています。	参加者全員が意見しやすい様、進行に配慮している点が見受けられます。また、会議に参加する地区役員を通じて、事業所が地域のお祭りに関わる方法を相談する等、地域との協力体制が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度、連絡をとり報告や相談をしています。	行政担当課と連絡を取る事業所内の担当者を決めており、窓口を一本化する事で関係構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的研修と委員会を開き身体拘束をしないケアについて考えています。身体拘束ゼロに取り組んでいます。	内部研修等を通じて正しい知識を身に付け、身体拘束をしないケアの実践に努めています。また、行動の抑制に繋がる言葉がけについて職員間で話し合う機会を設け、気付いた点をケアの質の向上に活かしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的及び随時に研修や話し合いを行い日々のケアについて考えています。また、職員同士で意識し、注意することで虐待防止につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修を行い制度や法律を知ること で必要な方への活用が出来るように支援 しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	分かりやすく丁寧な説明を心掛けています。 不安点や疑問がないかその都度尋ね、同意 書が必要な場合はその都度書面を作成し同意 を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	電話や面会時には積極的に声掛け、意見 や要望など反映させています。また、必要時 には随時に話し合っています。	感染症流行以降、面会を自粛される家族も 多い為、電話で日常の様子をこまめに伝える 取り組みに力を入れています。家族が意見 や要望が言いやすい関係構築に努めている 様子が窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的又は随時に話し合い、提案や意見を 反映させています。	日々の業務や会議の中で、職員一人ひとりの 意見や提案を聞き、反映できるように取り 組んでいます。また、手すり取付等の要望に 対し、代表者がすぐに対応し働きやすい環境 作りに努めている事が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員からの意見はできるだけ対応し、環境 づくりや条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	毎月の内部研修を実施しています。又、一 緒に働く中で気づきがあればその都度指導 したり資料を渡しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	情報交換の際は、電話等で意見交換を行 っています。感染症対策やご家族の対応 など話し合いサービスの質の向上に取り組 んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人との面談は必ず行い、その時の困っている事や不安を傾聴し、信頼関係が気づけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談以外でも電話等でコミュニケーションをとりながら、不安や要望を聞き、安心していただける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームでのサービスやご本人とご家族の求めるものに合っているか否かや、他のサービスを含めた支援も考え対応できる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができるところはひとりで行っていただき、できないところでも「一緒に行く」ことを大切にし、暮らしを共にしている者同士の関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人についてホームで困っている事やご家族の要望には、一緒に解決に向けて取り組み、支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況を見ながら、出来るだけ面会ができる様最善を尽くしています。	感染症流行を理由に全ての活動を制限するのではなく、面会や外出が可能な限り行える様に最善策や代替案を都度検討し、馴染みの関係性が途切れないように努めている様子が窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などを工夫し、会話ができる様になっています。数人で洗濯物や食事の盛り付けなどを行う事で利用者同士の関わり合いを増やしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で近況を尋ねたり、話をする事で退所後の様子を聞いたりしてアフターフォローを行い途切れない支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず入所前にご本人と面談し生活の場を確保させていただき、入所後のサービスに不安が増えない様努めています。	今までの暮らしや日々の会話の中から思いや意向を把握する様に努めています。入居者の思いが職員の考えに傾きすぎない様に、本人本位の視点で推察する事を管理者は大切にし教示、助言をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用していたサービス機関や病院等との情報交換を行い暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察と職員間での情報共有を行う事でサービスの統一性を図る様にしています。ご本人のできる事できない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時の「暮らしの情報」をもとにした変わらない生活を目標にしています。又、認知症状の特徴に寄り添う研修を行い、その方に適した支援・関わりができる様努めています。	チームで意見交換をし介護計画を作成しています。また、認知症に関する内部研修を年に3~4回実施しており、高い専門性による気付きが介護計画に反映できるように力を入れて取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の観察や記録を基に職員間で情報交換を行い、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、訪問歯科など必要に応じて受診しており、相談・指導を受け対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容を取り入れたり、自由に中庭へ出て体力づくりができる様支援したりしています。又、ご本人の行ってきた趣味や仕事で携わった事などを行う事で生活を楽しめる様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に添う様にしています。又、外出や受診が困難になった方には往診が受けられる様対応しています。	本人や家族の希望に対応しています。往診の際事前に入居者の日頃の様子を情報提供し、適切な医療が受けられる様に支援しています。また、専門医に受診する際、必要に応じて家族と職員も付き添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡シートを活用したり、訪問日に直接相談しています。気になる事があれば随時電話にて報告、相談し適切な指示を受け支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師やソーシャルワーカーと情報交換する等、直接連絡を取る事で早期退院ができる様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の看取りの説明に限らず、その時その時にご家族、医師、施設と話し合い、意思確認を行いながら、ホームで出来る限りの支援に取り組んでいます。又、職員は、定期的、随時に研修の場を設け適切なチームケアと環境づくりに取り組んでいます。	重度化や終末期を支えるにあたり、協力機関も含めた医療・看護・介護の連携に力を入れて取り組んでいる様子が窺えます。また、介護度の進んだ入居者の身体介護について、外部講師を招いた移乗の勉強会を開催する等、ケアの質向上に努めています。	これからも重度化や現状に合わせた身体介護の技術的なスキルアップに取り組まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な初期対応ができる様にマニュアルを作成し、定期的な検討会や研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜を想定した避難訓練を行っています。その時の課題や職員の感想はマニュアルの見直しに活かしています。運営推進会議では、ホームの備品、訓練の感想などを伝え意見交換を行い、もしもの時の協力体制を築いています。	定期的に入居者と避難訓練を実施しています。今年度は長時間の停電を想定して、発電機を用いた炊事を行う等、様々な事態に備えた取り組みを行っています。業務継続計画は、年度内の完成を目指して作成中です。	業務継続計画の年度内の完成と、停電時の対応や避難場所への誘導を、職員全員が落ち着いて安全に行える体制の整備に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の特徴を理解し、個人に合わせた声かけ、対応に努めています。ご本人の好む言葉、安心する事の大切さを選びプライバシーを損ねない対応をしています。	特に、すぐ本人の要望に対応できない時は、少し待ってもらう事を丁寧に伝え、本人の気持ちを大切に考えた言葉かけに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が「選ぶ」事のできる様な声かけを心がけています。今したい事には、出来るだけ対応できる様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンに合わせた時間で過ごせる様支援しています。趣味や食事時間などは、出来るだけご本人の希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族に話しを聞きながら、その人らしい衣類で毎日を過ごせる様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力に合わせて、切る・混ぜる・盛る・配る等職員と一緒に、食事が始まる楽しみや役に立っている自信につなげています。又、月に数回は好きなメニューと一緒に決めていきます。	月に数回、入居者と一緒に決めた料理を事業所で調理して提供しています。調理の下準備を入居者と共に行う事や、気候の良い日は中庭のデッキを食事場所とする等、食事を楽しむ工夫が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談しながら、食事量の調整をしたり必要な方は、栄養補助食品も摂取していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔保持できる様支援しています。また、必要な時は、訪問看護師、医師と連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた尿パット等を使用し、快適に生活できる様支援しています。排泄パターンを把握し自立に向けた支援につなげています。	排泄の失敗があった場合には、必ず入居者一人ひとりの原因について考え、根拠に基づいた排泄用具の選定や、排泄パターンに応じた定期的なトイレ誘導等、適切な支援方法をその都度検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を調整したり、かかりつけ医や訪問看護師にも相談する事で便秘の予防ができる様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いする事なく、ご本人の希望、体調に合わせて入浴を行っています。一人ひとりに合わせた入浴方法で取り組み、見守りや支援を行っています。	本人の入浴に対する意向を把握し、安易に安全面を優先した介助方法を選択するのではなく、可能な限り本人の意向に沿った入浴方法を検討し、支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な時に休める様支援しています。照明や室温などを調整し、安心して休める様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者が使用している薬の把握に努めています。薬の変更等があれば症状の変化を観察し報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣や趣味などは、入所後も出来るだけ続けられる様支援しています。新聞やテレビを見て談話したり、おやつ作りやゲーム等その人に合わせた楽しみで気分転換できる様しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はコロナ感染対策のため外出は控えていましたが、最近では少しずつ、ご家族の協力も得ながら外出できる様支援しています。又、中庭を散歩したり、庭で食事をしたり室内だけの生活にならない様にしています。	感染症流行により、積極的な外出は控えていますが、気分転換が図れる機会を大切にして取り組んでいます。事業所敷地内の中庭を活用した外気浴やイベント等を日常的に行っている様子が窺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が現金を所持することはありませんが、欲しい物や必要な物の希望があった時は購入できる様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の要望があった時は、随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が迷わず安全に動けるような配置にしています。壁や廊下には、季節のものや自らが作成したものを展示し楽しく過ごせる様工夫しています。	季節に合わせた装飾や入居者の作品が展示され、職員は日頃から言動に気を配るなど、ゆったりと居心地良く過ごせる様、さまざまな配慮が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の固定はせず、好きな時に好きな場所へ行ける様支援しています。又、ソファーなどでゆったり過ごせる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものや自宅に飾ってあったものを使用していただく事で安心できる工夫をしています。	収納家具や掛け時計等、本人の馴染みの品物を持ち込んでいます。以前の生活環境を把握した上で居室内の配置を決めており、本人が居心地よく過ごせる工夫が見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の生活パターンや動線を把握し危険なものを取り除く事で自立した行動が出来る様にしています。		